

令和５年度 京都市立芸術大学評価委員会（第４回） 会議録

△事務局 ただ今から、令和５年度第４回公立大学法人京都市立芸術大学評価委員会を開催いたします。

委員の皆様方におかれましては御多忙のところ御出席いただき、誠にありがとうございます。委員の皆様、京都市及び大学の出席者の紹介については、委員名簿と席次表の配布に代えさせていただきます。

次に、本委員会の公開についてです。本市では、京都市市民参加推進条例第７条において、審議会等を原則公開することが定められております。このため、本会議についても、公開としております。

また、本評価委員会の定足数の関係ですが、会議に必要な定足数である委員の過半数を満たしていることを御報告いたします。

なお、会議録につきましては、発言者の氏名を伏せた上で、文化市民局のホームページ上で公開させていただきますので、よろしくお願いいたします。

次に、お手元の資料の確認をお願いいたします。次第にも記載しておりますとおり、資料１～３、参考資料１～４を御用意しております。過不足等がございましたら事務局までお申しつけください。

これから先の議事進行につきましては委員長をお願いしたいと存じます。委員長よろしくお願いいたします。

●委員長 それでは、議事を進めて参ります。限られた時間でございますので、円滑な議事進行に御協力いただきますようお願いいたします。

初めに、議題「第３期中期計画最終案」でございます。第３期中期計画については、昨年１２月に議論した内容を踏まえ、大学のほうで計画案を再考されました。それでは、大学事務局から、中期計画最終案について、御説明をお願いいたします。

<○大学法人 資料１に基づき説明>

●委員長 続いて、理事長から、補足がありましたらお願いいたします。

<○大学法人 説明>

●委員長 ありがとうございました。これから御意見を伺いますが、最初に、本日欠席されている委員の方につきまして、前もって事務局が意見を伺っているそうですので御報告をお願いします。

△事務局 ○○委員、○○委員に事前に説明をさせていただいており、そこで出た意見を御紹介させていただきます。まず○○委員について、これまで議論してきた内容が計画にバランスよく反映されており、異論はないとのことでした。○○委員からは2点あり、1点目は、地域との連携について、移転当初だけでなく、継続し、さらに増やしていくという思いで取り組んでほしいとのことでした。もう1点は、広報について、例えば今実施している作品展の周知など、SNSなどを活用し、力を入れて取り組んでもらいたいとのことで、いずれも今後への期待を込めてコメントをいただいております。

●委員長 それでは、御意見のある委員は発言をお願いいたします。計画についての議論は以前にもしておりますので、将来への期待という観点でも、御意見いただければと思います。

●委員 前回の議論を踏まえ、変えるべきところは修正いただいておりますし、意見のうち修正に繋がらなかった部分も丁寧に説明がありましたので、私としてはこの案に大賛成です。ぜひ新しい中期的な指針として、しっかりと取組を進めていただきたいと思います。

最近KPIや数値目標が流行りのようで、それを作ることがある種の客観的な評価に繋がるという考え方は間違いではないと思いますが、複雑な取組の成果を1つ2つの数字で評価することはおそらくできないと思います。もちろん数値目標で挙げたことは達成していかなければならないと思いますが、そこにこだわりすぎたり、焦点を当てすぎて全体像が見えなくなると良くありませんので、指標以外の文章の趣旨や取組の方針をしっかりと認識しながら総合的にやっていく必要があると思います。これは指標の達成より大事なことはないかと思いますが、その点も留意して取り組んでいただけたらと思います。

また、中期計画に記載する内容ではありませんが、中期的な取組として取り組んでいただけたらと思うことが2つあります。1つ目は、生涯現役で仕事をしていくために重要な学び直し、リカレント教育にぜひ取り組んでいただきたいと思います。芸術やアート、デザインなどを学び直すことで、次の仕事に繋がれると非常に大きいと思いますし、京都芸大でもそのような新しい役割を中期的に見出され、積極的に取り組んでいただけたらと思います。

もう1つは、京都には非常にハイクオリティな文化や芸術、芸能があり、それが人を集めて発展してきたような歴史があると思いますが、最近の人口動態などを見ると、近隣の経済圏に人を吸い取られ、人口が減っているように見受けられます。もう一度、京都らしいハイクオリティな文化、芸術、芸能を磨き直すしていく必要があるのではないかと思います。京都には多くの芸術系の大学があり

ますが、都心、まさに十字路の真ん中にありますので、公立大学として、文化芸術を磨き上げる役割をしっかりと果たしていただければと思います。

●委員長 ありがとうございます。〇〇委員いかがですか。

●委員 前回の意見をまんべんなく反映いただき、より分かりやすい計画になったと思います。新たに具体的な指標も入れられて、それなりにチャレンジングな指標もあるように思いました。例えば、志願者倍率を第2期と同程度以上とすると書かれていますが、少子化が進む中で6年間維持するというのはチャレンジングな指標だと思います。

未来に向けてということで少しお話させていただきますと、前回、初めて大学を訪れ、やはり塀がないだけで非常に開かれた印象を受けると実感しました。新たな施設で、地域に開かれた、テラスのような大学をぜひ実現していただきたいです。私のように、訪れてみないと分からないこともあるかと思いますので、市民が足を向けるような機会を多く作っていただきたいと思います。

また、今回新たにデジタルの基盤を強く掲げられ、まず設備をしっかり整えるというお話でした。基盤を整えた後、次の計画ではどのように芸術に反映させていくかという具体論に進めるよう、取組を進めていただきたいと思います。

最後に、P7のダイバーシティについて、具体的な表現で記載いただき、より分かりやすくなったと思いますが、指標が女性比率だけとなっていますので、次の計画では女性以外の指標が作れるよう、活動していただきたいと思います。

●委員長 ありがとうございます。〇〇委員いかがでしょうか。

●委員 全体的なところで意見を申し上げますと、大学ということで専門性を極めるのは非常に重要だと思いますが、ウェルビーイングという広い視点で見て取組を検討されることは非常に良いことだと思いますので、今後ともそのような視点を持っていただけたらと思います。

●委員長 ありがとうございます。最後に私から、非常に魅力的な指標を立てられたと思います。例えば、志願者倍率もそうですが、大学を経営してる目から見て、図書館の入館者数と女性比率はなかなかチャレンジングな数値だと思います。実は本学の女性教員比率は37%で、全国的に見ても、40%を超える大学はほとんどなく、なかなか超えられません。音楽はもともと女性教員が多いと思いますが、美術はまだ増える余地がありますか。

○理事長 指標を立てて積極的にと考えているのは美術のほうで、今増えてい

るところでもあります。

●委員長 ぜひ見習わせていただきたいと思います。

今後への期待ですが、デジタル基盤について、基盤だけでなく、ぜひ学生が様々なネットワークを使える施設やアプリなどを整備していただきたいと思います。工芸繊維大学ではデザインのアプリを導入していて、デザイン科の学生はずっと大学で作業しています。そういうことも検討していただければと思います。

もう1つは、委員がおっしゃったウェルビーイングについて、これは非常に幅広い概念ですが、やはり学生の精神的な意味での健康管理が非常に重要だと思います。先ほどの大学からの説明で保健室の話もありましたが、提携病院やよく紹介する病院がおそらく決まっていたり、臨床心理士のカウンセリングなど色々あるかと思います。新しい組織を作るより、その辺りの整備をより進めていただきたいと思います。

ありがとうございました。大学から補足などありましたらお願いいたします。

○理事長 特にありません。

●委員長 それでは続きまして、議題「地方独立行政法人法改正に伴う今後の評価委員会について」です。事務局から説明をお願いします。

<△事務局 資料2・3に基づき説明>

●委員長 ありがとうございました。それでは、御意見のある委員は発言をお願いいたします。

●委員 他の国立大学の評価委員をしたことがあります。そのときは5、6年に1度の評価で、委員も全く知識がないままに膨大な資料を読み、意見を求められるので、難しかったです。その経験から、任意でレビューする機会があると、大学にとっても評価する側にとってもありがたいと思います。任意の評価委員会の場合、今までのように文章で全ての取組を評価する方法もあるとは思いますが、例えばその1年で成果が上がった取組などをピックアップし、現場でそれを見させていただくなど、毎年でなくても良いですが、色々工夫して、あまり事務量が増えない範囲で運営いただければと思います。

●委員長 ○○委員いかがですか。

●委員 毎年大学の状況を知る機会をいただけると、進捗が分かりありがたい

と思います。より評価のイメージが湧くお話もお伺いできると思います。

●委員長 私の意見としては、少なくとも指標は、どのような数値が出たか、年度ごとに報告いただければと思います。

気になるのは認証評価がある年度で、認証評価ではおそらく同じような指標で評価されますので、数字を積み上げていかなければなりません。このときには、大学での認証評価の準備とともに、評価委員会を1度開いていただくと、委員会意見を基に少し改善することができます。第3者から見て何か御提案できることがあるかもしれませんので、評価委員会の時期を少しお考えいただければと思います。

〇〇委員何かございますでしょうか。

●委員 私からは特にございません。

●委員長 ありがとうございます。以上で、本日の議事が終了しました。円滑な進行に御協力いただき、ありがとうございます。では、進行を事務局にお返しします。

△事務局 長時間にわたり、御審議いただき誠にありがとうございました。中期計画については、本日御確認いただきました最終案を、大学から市に申請いただき、市で認可の手続きを行わせていただきます。委員の皆様には、中期目標・中期計画の策定に御尽力いただき、誠にありがとうございました。

1点御報告いたします。〇〇委員におかれましては、第3期中期目標・中期計画策定のために評価委員会に参画いただいております。今回の委員会で最後となります。目標・計画策定に御尽力いただきましたことを、この場をお借りして御礼申し上げます。ありがとうございました。

最後に一言御挨拶いただきたいと思います。〇〇委員、よろしくお願いいたします。

<委員 挨拶>

△事務局 最後に政策監から一言申し上げます。

△政策監 本年度は、43年ぶりの移転という節目の年に、中期目標・中期計画という今後の大学の方針を定める重要案件について、熱心に議論していただき、本当にありがとうございました。おかげさまで、京都芸大らしい当面の方向性を共有することができ、今後の道筋を明らかにすることができたと考えておりま

す。新市長は2月25日からの就任になりますが、この間の議論や目標・計画をしっかりと説明し、引き続き大学とも連携して、京都芸大がさらに魅力ある大学として飛躍できるように取り組んでまいりたいと考えておりますので、引き続きどうぞよろしくお願いいたします。

また、〇〇委員には本当にお世話になり、ありがとうございました。会社での御経験、知識を基に、大変参考になる御意見をいただき、感謝申し上げます。この評価委員会だけでなく、また様々な場面でお世話になるかと思っておりますので、引き続きどうぞよろしくお願いいたします。

本日はどうもありがとうございました。

△事務局 それでは、本日はこれにて終了いたします。お忙しいところ誠にありがとうございました。